

第2回

児童・生徒の意欲を高めるように本時の課題（めあて）を設定するには？

第1回「課題を解決するためのレディネスをそろえるためには？」を掲載しましたがいかがだったでしょうか。今回は、授業の中で同じ導入の段階にある課題設定に焦点を当て、「児童・生徒の意欲を高めるように本時の課題（めあて）を設定するためには？」について述べてみたいと思います。

授業参観から見てきた特徴と課題

9月から現在までの授業参観を通して、小学校算数科と中学校数学科の授業において、導入部分に次のような特徴や課題が見られました。

【特徴】	小学校は「めあて」、中学校は「課題」という形で方向性を示し、それを解決する課題解決型の授業が多い。
【課題】	○課題（めあて）の提示が教師側から一方的に行われ、解決する意欲が高まらない ○課題（めあて）が焦点化されていないため、本時のねらいに迫ることができていない

授業の導入部分は、学習するねらいや方向性を確認し、動機付けをする段階です。また、ここで設定した「めあて」や「課題」により、授業の方向性が決まり終末段階のまとめも変わってきます。したがって、「めあて」や「課題」の内容は、授業全体を形づくるものといっても過言ではなく、大変重要な位置を占めます。

本稿では、小学校で「めあて」が「課題」とほぼ同義で使われている現状をふまえ、「めあて」と「課題」を同じものにとらえていくことにします。

意欲を高める課題（めあて）を設定するには？

次のような視点から日ごろ設定している「課題（めあて）」を見直し、意欲を高められるような「課題（めあて）」を設定したいところです。

【視点1】児童・生徒の実態を的確に把握する。

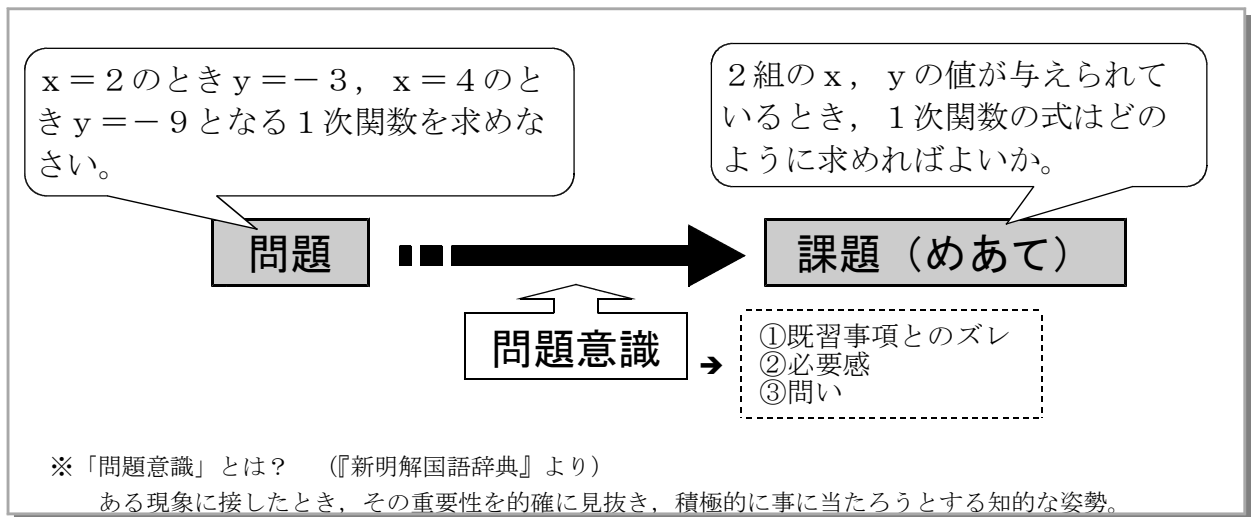
児童・生徒の実態を次のような視点からの的確に把握します。

- ① 学力の実態（各種テストの結果、児童・生徒の個人差、間違いの傾向）
- ② 思考の傾向
- ③ 発言や発表の傾向
- ④ 毎時の基礎事項の確認 など

①については学級全体の傾向だけではなく、レディネステストやプレテストを実施して単元及び本時の内容に関する実態を把握することが大切です。学習指導要領や児童・生徒の実態をふまえて、単元の目標及び指導計画を設定し、本時のねらいを作成します。

【視点2】 解決する必要感のある課題（めあて）を設定する。

児童・生徒が課題解決に意欲的に取り組むためには、解決する必要感がもてるのが大切です。解決する必要感のある課題を設定するためには、できる限り問題から課題（めあて）を設定し、問題提示後に問題意識を高めることが必要です。



しかしながら、1年間の授業全時間について、問題から課題への手順で課題（めあて）を設定するのは、内容や児童・生徒の実態などにより難しい場合があります。また、最初に設定した問題がそのまま学習の課題（めあて）になることもあります。したがって、「全時間この方法で」ではなく、「内容や実態に応じて可能な限り多く」と考えればよいと思います。

以下に述べる<例1>～<例3>は、その一例です。ぜひ参考にしてください。

[参考] 望ましい課題の条件⁽³⁾

- ① 児童・生徒にとって学習の必要性・必然性があり、学習したことのよさを感じ得るもの
- ② 児童・生徒の生活経験や実態に即し、身近に存在するなどの現実性があるもの
- ③ 満足感、充実感、成功感等を体験でき興味、関心や学習意欲を喚起し、持続するもの
- ④ 児童・生徒にとって驚き、不思議さ、新鮮さがあり、解決にあたって多少の困難性があるもの
- ⑤ 多様な考え方ができ、発展性があるもの

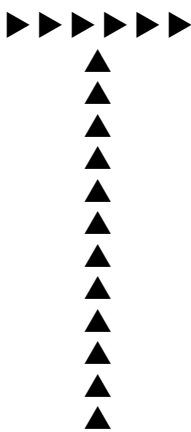
<例1> 小学校 第5学年 面積の求め方を考えよう 「四角形と三角形の面積」

本時のねらい
既習の面積の求め方をもとに、平行四辺形の面積の求め方を工夫して考えることができる。

1

問題

平行四辺形 ABCD と平行四辺形 EFGH は、どちらが、どれだけ広いかわかると答えなさい。



3

めあて

平行四辺形の面積の求め方

2

問題意識

- ① □ ABCD のほうが広いけど、どのくらい広いのかな？
- ② この問題を解くには、平行四辺形の面積を求めることが必要だ！
- ③ 面積はどうやったら求められるのかな？

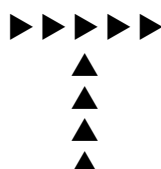
<例2> 小学校 第4学年 わり算の筆算を考えよう

本時のねらい
何十でわる計算について、10をもとにした考え方をういてあまりの大きさを理解し、その計算ができる。

1

問題

70 さいの本を20 さいずつ分けると何クラスに分けることができ、何冊あまりますか。



3

めあて

何十÷何十のあまりのある計算のしかたを考えよう。

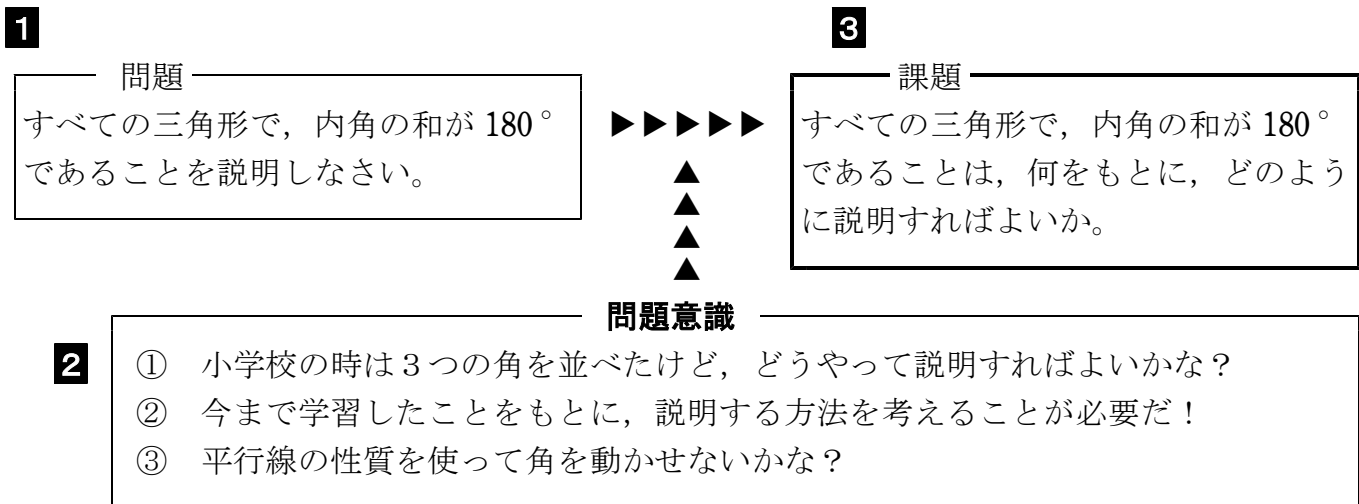
2

問題意識

- ① 前の時間に学習したのとはちょっと違う、あまりを求めるにはわり算で計算するのかな？
- ② この問題を解くには、何十÷何十であまりのある計算をすることが必要だ！
- ③ あまりのある何十÷何十はどうやって計算すればよいかな？

<例3> 中学校 第2学年 平行と合同 「証明」

本時のねらい
三角形の内角の和が 180° であることを，平行線の性質を利用して説明することができる。



【視点3】（授業では）課題（めあて）を解決するために必要な既習事項を確認する。

第1回「課題を解決するためのレディネスをそろえるためには？」でも述べましたが，主体的な課題解決を目指すためには，本時の課題（めあて）を解決するのに必要な基礎事項を確認することが必要です。既習事項を確認してはいるが，本時の内容と関係のあまりない事柄を確認している授業にであうことがあります。本時の課題（めあて）を解決させるために，必要かつ最低限の事柄の事柄を確認してください。

[参考文献] (1) 文部科学省『小学校学習指導要領解説算数編』平成20年，東洋館出版社
(2) 文部科学省『中学校学習指導要領解決数学編』平成20年，教育出版
(3) 佐藤俊太郎・片平嘉正編『ベストを求める数学科授業研究』1992，明治図書
(4) 『2011～2012年版 総合教育技術5月号増刊 最新教育基本用語』2011，小学館